

令和5年度 学校関係者評価委員会 報告書

1. 開催日 令和6年5月28日(火)
2. 時間 15時～16時30分
3. 場所 鹿児島工学院専門学校 1階
4. 出席者 **【委員】**敬称略
- | | | |
|---------------------|--------|---------|
| 一般社団法人 鹿児島県電設協会 | 会長 | 春山 建 |
| 一般社団法人 鹿児島県自動車整備振興会 | 技術教育部長 | 平野 学 |
| 一般社団法人 鹿児島県建築協会 | 事務局長 | 井手之上 浩幸 |
| 株式会社 上野城 | 代表取締役 | 上野 敏孝 |
- 【学校教職員】**
- | | |
|---------------------|--------|
| 校長 | 村田 直志 |
| 教頭 | 永野田 純一 |
| 事務長 | 亀甲 章蔵 |
| 電気技術工学科科長 | 吉田 大悟 |
| 自動車工学科・1級自動車工学科科長 | 上野 純 |
| 建築デザイン科・建築士専攻科科長 | 西 利一郎 |
| ライフデザイン学科科長／教務・広報部長 | 熊谷 朋子 |
| ライフデザイン学科／議事録 | 南迫 絵理 |

発言者	内容
村田	1. 開会挨拶 本校 校長より、1級自動車工学科およびライフデザイン学科の新設報告を含めた挨拶
熊谷	2. 学校概要説明 以下について説明 ・修学支援新制度および私立理工農系学科在籍支援について ・新設学科（1級自動車工学科・ライフデザイン学科）概要説明，第1期生特別減免について
永野田	3. 令和5年度における自己点検・評価 昨年度から自己点検・評価の内容を専修学校のガイドラインに沿った内容に変更。詳細は別紙の通り。 (1)教育理念・目標 基本方針・教育目標は、全教員が十分理解できる場を定期的に設け、共有・理解した上で日々の教育に取り組んでいる。 (2)学校運営 学園・学校の運営方針に基づき、各部門にて事業計画を策定し、全体で共有している。また、教育活動の情報公開については、ホームページを活用し、主に各学科の授業の様子を発信している。業務の効率化については、今後も具体的なシステム構築のための情報収集・検討をしたいと考えている。 (3)教育活動 各学科、関連分野の企業・業界団体と連携し、随時、カリキュラムの見直し等を行っている。特に、電気技術工学科は、週一回、業界団体による特別講義を通し、実践的な職業教育を行っている。

学籍簿等については、効率と正確性をもって管理しているが、募集活動から含めた一元管理には至っていないため、今後、システム導入に向け改善していきたい。

(4)学修成果

【3.退学率の低減への取り組みが適切に行われているか】

遅刻・欠席は担任のみの管理ではなく、全職員で学生動向を共有し、状況の把握・管理をすることで退学率の軽減に繋げている。遅刻・欠席が続いている学生に対しては、全職員で、学業との両立に向けた改善策を考え指導にあたっている。

【5.卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか】

企業に対してヒアリングを実施しながらシラバスの見直し・教材の工夫を行うと同時に、本校での学びが卒業後にどのような効果・成果があったかを精査し、日々、改善に努めている。

(5.)学生支援

【4.学生の健康管理を担う組織体制はあるか】

学校医と連携し、校内で健康診断・眼科検診・耳鼻科検診を実施。その内容の充実について今後も検討する。

【6.親元を離れている学生の生活環境への支援は行われているか】

物件保有業者と提携し、割引・奨学生制度を学生に提供。費用負担が少ない賃貸物件の紹介をしている。

(6)教育環境

施設・設備について、劣化を感じる箇所は改修を行っている。また、各学科、授業に必要な備品等を計画的に調達している。

防災訓練は毎年4月に実施。毎年3分程度で避難が完了できている。

今後も、業界・企業と情報交換を行いながら、更に整備する。

(7)学生の受入れ募集

学生募集活動については、実際の学びとギャップがないよう、また、学習成果についても、正確な数字に基づく適切な情報を伝えている。

学納金に関しては、コロナウイルス感染症の影響で収入が減っている世帯が世間的に多いため、入学金を減額した時期もあった。昨年より第5類感染症に移行したことで、令和7年度より減額前と同額にする予定。今後も、社会情勢を踏まえながら柔軟に対応する。

(8)財務

学園全体で連携を図り、適切に運営し、情報公開に努めている。

(9)法令等の遵守

【3.自己点検・評価の実施と問題点の改善に努め、また、結果を公開しているか】

関連する業界・企業の方々を委員として迎え、学校関係者評価委員会を実施しており、頂いたご意見は報告書としてまとめ、ホームページに公開している。

(10)社会貢献・地域貢献

【1.学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか】

例年、高校生への業界説明・体験型説明会を行っているが、ここ3年は中学生の学校見学・体験実習の受け入れを行っている。将来の展望を考える職業教育の一端を担えるよう、今後は、中高生だけでなく、今後は、高校生・中学生だけでなく、小学生を対象とした職業理解も実施を検討している。

春山委員	<p>4. 質疑応答</p> <p>(5)6.学生への生活環境支援について、一人暮らしの学生の割合はどのくらいか？学生寮はあるか？</p>
永野田	<p>全体の3割ほどが一人暮らし。 学生寮はないが、その代わりに物件紹介等のサポートを行い、入居後も相談を受けている。</p>
平野委員	<p>(4)5.卒業後のキャリア形成について、近年、3年ほどで離職する人が全国的に多いように感じる。卒業後は企業に対して何年くらいの追いかけをしているか？また、学生が3年以内に退職した際は、把握しているのか？</p>
西	<p>建築デザイン学科は、企業との連携が普段から図れているところは把握ができていますが、求人が継続的にないところについては、把握できていないのが現状である。</p>
熊谷	<p>学科・分野によって採用状況の違いなどもあるかと思う。自動車分野は、就職する際の職種の大半が県内での自動車整備士となっているため、ディーラーとの繋がり強い傾向にあり、20年以上前の卒業生とも連絡が密に取れていたりするが、電気・建築分野においては職種が幅広く、毎年のように求人を頂く企業もあるが、県外や小規模な企業だと引き続き採用する枠がないため、継続して卒業後の情報収集を行うのが難しいところがある。今後、同窓会組織の活性化により実情の把握に努めていきたいと思う。</p>
平野委員	<p>県外就職する人が増えているように感じる。県内に残る卒業生からの情報発信も学生や学校にとっては頼りになると思う。</p>
熊谷	<p>自動車工学科は企業奨学金制度による学費支援が助けになっている学生も多く、ほとんどの学生が県内就職となっている。昨年からはじめた電気技術工学科の企業奨学金制度の認知にも努めていきたい。</p>
上野委員	<p>ライフデザイン学科が掲げている『自分がどのような人生を送りたいか』は、学生へ指導することによってやりがいに繋がると思うので、全学科共通して学んでほしい。 ただ学校で必要なことだけを学び、マニュアル通りに仕事する人間になる教育ではなく、長い人生を見据えた上での教育の在り方についても、評価の項目に入っているか。</p>
熊谷	<p>『(3)5.学生の社会的・職業的自立を促すキャリア教育及び実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実践されているか』に該当する。 この項目は、専門的な知識やスキルだけでなく、人柄やビジネスマナー、職業人としての在り方を意識してカリキュラムを組んでいるか、という評価項目になっている。 ライフデザイン学科はそこに特化しているが、全学科、『一般教養』『ビジネスマナー』の科目の中で教えている。ただ、国家資格に対する監督省庁からの必要一定時間数が優先されるため、実質的には十分とは言えないが、この教育は将来的な離職率の軽減にも繋がるため、職員も授業や日常指導の中で働きかけている。 ライフデザイン学科は、キャリアデザイン力といったものを確立し身につけて働いていこう、</p>

	<p>という学科となっている。</p> <p>※以下、各学科の取り組み</p>
吉田	<p>【電気技術工学科】</p> <p>電気分野は職種の幅が広い。国家資格の取得が中心にはなってくるが、毎週、企業の方に来ていただき電気実務の授業を実施している。現場で実際に働いている方から、仕事に対する取り組み方や考え方、技術面を教えてもらっている。</p>
上野	<p>【自動車工学科・1級自動車工学科】</p> <p>社会人としてコミュニケーションが図れるよう、授業の中でロールプレイングを取り入れている。また、『ビジネスマナー』の授業で基本的なパソコンスキルや電話応対・メール作成など、基礎的な社会人スキルが身につくよう指導している。</p>
西	<p>【建築デザイン学科・建築士専攻科】</p> <p>他学科同様、社会人スキルが身につく『一般教養』の授業を取り入れている。また、『施行実習』の授業の中で実際に学校の改修工事を行っている。工事をするだけでなく、計画や図面作成など、実務に近い内容で実践させ、即戦力として活躍できるように取り組んでいる。</p>
井手ノ上 委員	<p>(4)学習成果ついて、自身を振り返って「学校に行ってどんな効果があったか」と考えることがあるが、学校側から企業等に学校での学びが卒業後にどのような効果・成果があったかを聞き出せれば実践的な教育ができるのではないかと、今後の取り組みを聞いて感心した。</p> <p>また、職員間の学生に係る情報共有について、当日の出欠状況をホワイトボードに記載して職員間で共有しているということだが、教員間で情報共有ツールを使用すれば、システム化による業務効率化に繋がるのではないか。</p>
熊谷	<p>中長期的な共有として、クラス運営報告書・授業運営報告書というものを毎月、全教員がデータと紙ベースで提出し、保存している。</p> <p>記録を残すことによって、何かしら問題が起こった際に迅速に対応できるようにしている。</p> <p>学生の悩みを放置しない、学生の問題を教員が一人で抱え込まない、ということも兼ねて行っていることだが、DX化というようなシステム導入には至っていない。</p>
平野	<p>(6)教育環境について、施設・設備の改修はされていると感じているが、学校内での評価が低いことが気になる。</p>
永野田	<p>自己点検・評価については職員が評価をしていることから、教員としてより充実した授業を展開したい思いからだと思う。</p>
村田	<p>専門学校の教員として、現場で社会に貢献できるよう、教育の充実を考え高いレベルを要求している。それは教員としてあるべき姿でもあるので、学校として高評価に繋がるような改善を実現していきたい。</p>

春山委員	<p>もし、学校でのさまざまな事情によって実現できないことがあるのであれば、業界の協会等に要望事項を出してもいいのではないかと。できることに限りはあるが、学生を育てたいという気持ちは同じなので、当協会としても検討してお応えしたい。</p>
井手ノ上委員	<p>(10) 1.中高生への職業理解について、体験を通して「この仕事に就くと、こんなに社会のためになる」という認識を小中学校のうちにしてもらえると、世の中に居場所を見つけることもでき安心できるのではないかと思う。</p> <p>建築業界でも、これまでは工業高校生に絞って体験等をしてきたが、最近は小中学校のうちにアプローチするように考えを改めている。</p>
平野委員	<p>(ライフデザイン学科について)</p> <p>先日、国交省と経営セミナーを開催したのだが、そのときの講師によると、鹿児島県は子育てが終わった女性の活躍が多い傾向であり、今後も女性の活躍が重要になるとのこと。資格や知識を持っている人材が重宝される時代なので、学科新設は良い取り組みだと思う。</p>
熊谷	<p>本格的に仕事に復帰できるのは子育てが一段落した後、それまでは非常勤など働き方を考えなければならぬ現実もある。ビジネススキルや人のご縁を繋げられる力が備わっていれば、さまざまなかたちで自分の居場所を見つけることができ自己実現が叶うと考えている。今後も学生たちが自分たちの強みを身につけられる教育ができればと思っている。</p> <p>ただ、状況にあった働き方ができるためには、根拠となるための資格は必要だと感じており、また、資格を持っているだけでも実務では通用しないので、学生には正當に評価してもらえ本物の力を身につけ、発信していける力も重要だと伝えていきたい。</p>
平野委員	<p>(1級課程の4年課程について)</p> <p>検査員は一級自動車整備士の資格を持っていることが本来は望ましい。自動運転・自動ブレーキなどが主流となってくると、一級の学習範囲を修得した人が活躍する時代がやってくると思われるので、1級課程の学生の教育を続けてほしい。</p>
村田	<p>1級課程を持っているのは、南九州では本校だけなので、その強みをいかして学生の募集をしていきたい。</p>
西	<p>(建築デザイン学科)</p> <p>近年、企業様からご協力いただきながら、学生向けに現場見学会を実施しているが、毎年継続して行っていない。可能であれば、現場見学会を引き受けてくれる企業紹介をしてもらえないか。</p>
井手ノ上委員	<p>現場は着工時期と完成する時期がさまざまだが、タイミングが合えば学生の受入れは歓迎する。</p>
村田	<p>建築デザイン学科が学習する内容の中には難しい表現が多く、敬遠する学生もいる。現場の様子を見る機会を増やして、前向きに取り組んでほしいという思いがある。</p>

井手ノ上 委員	建築業界は法改正も厳しくなっていることもあり、知識を身につける必要も確かにある。
上野委員	最初から知識ばかりの授業だと学生がうんざりしてしまうのも納得できるので、早い段階から現場見学などを行うと少しずつ楽しんで取り組めるのではないかな。
西	今年、1年次のゴールデンウィーク明けにモデルルーム見学の取り組みを行ってみた。学生の反応もとても良く、「楽しかった」という感想が多かったので実施してよかったと思っている。
井手ノ上 委員	少し先の話だが、桜島学校（義務教育学校）の見学はとても有意義になるのではないかな。魅力的な建物の構造になっているので、見学するとよいかと思う。
上野委員	（学ぶ意欲の向上について） ライフデザイン学科の在り方は、社会人向けにも有効なのではないかな。「何故この職業を選んだのか、10年後どうなっていたいのか」このような動機付けを学生・社会人に伝えてほしい。まずは自分の人生を考えた上でスキルを身につけることが大切だと思う。
熊谷	先日、オープンキャンパスに中学生が初めて参加した。建築の仕事を目指している中学3年生だったが、高専と普通高校・大学・専門学校、どこに進学するべきなのか判断するために参加したとのことだった。確かに、高専だと中学で考えなければならない。早い段階で真剣に考える方についての対応も必要だと思っている。 高校での講座でも、何を考えてから学校や分野を選ぶのか、そこを考えるように伝えてほしいと高校側からも要望がある。
平野委員	何もわからない中学生にとっては、とても勉強になったのでは。
熊谷	学生募集において、現実と実務とのギャップが起きないように説明を大切にしている。夢は持たせつつ、人の人生・生活の安全や財産に直結する職業なので、簡単ではなく努力が必要だということは伝えている。 学生が卒業した際も、離職することなく自分の思う道を歩んでいけるように、引き続き、教育・指導に力を入れていきたいと考えている。今後も、ご指導・ご鞭撻をお願いしたい。
永野田	5. 閉会挨拶 本校 教頭よりご協力いただいたことの感謝も含め、挨拶

※本議事録は、本校ホームページ上に掲載